

「インボイス制度の廃止を求める意見書提出」 請願採択を

本会議 討論（10月2日） 田口 一登議員

10月2日、本会議で、田口一登議員が「インボイス制度の廃止を求める意見書提出請願」の採択を求めて討論をおこないました。その内容を紹介します。

=====

私は日本共産党市議団を代表して、消費税のインボイス制度の廃止を求める意見書提出に関する請願の採択を求めて討論を行ないます。

インボイス制度は、小規模事業者やフリーランスの営業と生活に深刻な影響をもたらしています。約59万人分のインボイス反対署名を国に提出した「インボイス制度を考えるフリーランスの会」が実施した実態調査では、インボイスに登録した事業者では、6割余りが消費税や事務負担の費用を価格に転嫁できず、売り上げや貯蓄などを削って補填している。未登録の事業者では、値引きや発注量の減少、取り引きからの排除などにあった事業者が合わせて約45%にのぼ

っています。

公正取引委員会が発表した「独占禁止法違反事件の処理状況」によると、優越的地位の乱用の恐れがあるとして公正取引委員会が事業者に「注意」を行った事案の中に、「インボイス制度の実施に伴う発注サイドの事業者と受注サイドの事業者との取引条件の再交渉に関連した事案」、すなわちインボイス関連が40件にのぼったとのこと。

インボイス導入にあたって特例措置が講じられましたが、それでも小規模事業者やフリーランスの実態は深刻であり、特例期間が過ぎれば、さらに深刻になるでしょう。税制で商売がつぶれるようなことがあってはなりません。

以上から、本請願の採択を求めて討論を終わります。



大規模開発と大型事業の継続・市民税減税で市民サービスの財源不足 「名古屋市総合計画2028」（案）に反対

本会議 反対討論（10月2日） 岡田 ゆき子議員

10月2日、本会議で、日本共産党は市議団は、議案「名古屋市総合計画2028」（案）について、反対。岡田ゆき子議員が反対討論をおこないました。その内容を紹介します。

=====

日本共産党名古屋市議団を代表し、第129号議案「名古屋市総合計画2028」について、反対の立場から討論します。

反対理由の第1は、リニア中央新幹線は27年開業の断念、完成時期を見通すことができないにもかかわらず、長期的展望に立ったまちづくりとして、リニア中央新幹線を前提とした、大規模な開発方針をそのまま継続していることです。開発のために立ち退きや騒音等、不安や苦痛を強いられる市民を置き去りする等、名古屋のまちづくりに格差をつくるものです。

理由の第2は、名古屋城天守閣木造復元や徳山ダム連絡導水路等、大型事業を推進する計画であることです。

理由の第3は、河村市長の一丁目一番地であり、市民税減税が前提の計画であることです。富裕層優遇で庶民には恩恵は乏しく、所得再分配機能を損ねるものであり、こうした減税を続ければ、財源不足によって市民サービスの低下をもたらしかねません。市民税減税をやめれば、学校給食無償化等、市民負担を減らし、暮らしを支える施策に充てることができるのです。

住み慣れた街で、だれもが安心して暮らし、商売を続けることができる名古屋をつくることを、総合計画の柱に据えるべきだと申し上げて、討論を終わります。

